

# 第5回 災害対策本部員会議の概要

日時 令和元年10月14日（月）

18時30分から18時50分まで

場所 県庁3F 第一応接室

災害対策本部総務班

18時30分開会

## 【災害対策本部】

- 関係機関からのリエゾンの紹介。

## 【西島防災危機管理監】

- 対応状況を報告。

（資料を基に説明）

- 今後の会議について報告。

次回の本部員会議は、明日（10/15（火））17時を予定。

## 【各本部員等】

- 各部局及び関係機関の対応状況等について報告。

### ・保健福祉部長

宮古の障がい者福祉施設について、宮古市福祉課から夕刻もたらされた情報によると、警備員に言えば車両が通れる状況にはなったので孤立状態は解消したとのこと。

DMATについて、本日現地視察をしたが、岩手県に関しては急性期のニーズは無いだろうという報告があった。

また、本日14時19分、厚生労働省DMAT事務局から、青森県、岩手県、秋田県管内のDMATを、宮城県に派遣するよう要請があった。岩手県からは、岩手医科大学附属病院、岩手県立中央病院、岩手県立磐井病院、岩手県立胆沢病院の4チームを、明日朝8時に宮城県の仙南医療圏に派遣することで調整中。このほか、まだ打診の段階であるが、福島県から岩手医科大学附属病院に対してDMATのロジスティックチームの派遣の打診があり、派遣可能と回答している。おって正式に派遣する見込み。

### ・農林水産部長

農業関係では、リンゴ、ブロイラーの関係で被害がある。ブロイラーの被害は、未確認であるが4万羽程度の被害。

林業では、現時点で把握している被害額は1億8千万円程度。ただし、林道の被害の把握ができるのはこれからである。

水産では、漁船に加えて漁港施設等で浮棧橋の破損が判明。時化が続いており海上の施設の被害状況が把握できていないため、養殖施設の被害についてもこれからの把握。消波堤等の被害状況もこれからであるが、若干被害が出ている模様であり、現在現地で調査。

・政策地域部長

三陸鉄道であるが、宮古～田老間では土砂の撤去が完了し、明日15日から一部減便した上で運行を開始予定。釜石～宮古間と田老～久慈間は、引き続き被害状況の調査を行う。この区間については代行バスを運行予定で、ダイヤと運行本数はバス会社と調整中。朝の通学の時間帯に間に合うように調整を進め、本日中に三陸鉄道のホームページでお知らせする予定。

・沿岸広域振興局長

釜石市の避難所であるが、資料では9箇所となっているが、すべて閉鎖になった。

また、本日から、釜石市の社会福祉協議会がボランティアセンターを設置し、ボランティアの受け入れをはじめており、泥掻き等の活動が始まっている。

・陸上自衛隊岩手駐屯地

本日知事と現地に赴いたが、人的な支援が必要と改めて確認した。必要などころは言っていたきたい。自衛隊としては、生活支援として給水等もあるが、土砂の流入等もあるので現地の状況を確認して部隊を投入したいと思う。

【総務部長】

- 対応方針を報告。  
(資料を基に説明)

【保副知事】

私は、山田町田の浜地区、宮古市の主要地方道の重茂半島線の白浜地区を視察してきた。

山田町田の浜地区であるが、山手からの土石流が大量にあり、浸水は最大で1階の天井部分まで達した。現在、住民の方が泥や石の撤去作業に取り組んでいる。自衛隊の方と一緒にいったため、山田町で自衛隊の派遣要請に繋がったようである。これでは、いつまで経っても泥や土砂が撤去できないという不安がある。今後、住民の方が住居の整理や作業をする上で仮住まいが必要になるという印象を受けた。市町村とよく相談して対応していただきたい。

主要地方道重茂半島線であるが、半島の先の孤立地区まで行けなかったが、白浜地区は、本日9時半に通れるようになったところであり、宮古土木センターが大変尽力している。

宮古市からは、国道45号の崎山地区にある宮古第三トンネルがまだであり、物流に影響

響が出ていると状況説明があった。

車窓から、三陸鉄道の線路の様子を確認したが、相当の被害であり、かなりの期間と費用が掛かると思料している。県としても何らかの対応が必要という印象であった。明日から通学対応で代行バスを出すという説明があったが、宮古市でも対応を考えているようだ。

#### 【千葉副知事】

私は、釜石市にお邪魔した。

まず、市長からお話を伺った。避難所は本日閉鎖と説明があった。

孤立状態が解消した尾崎白浜地区、佐須地区では、自衛隊の給水車が水を配っていたので大変感謝しているとの声があった。

市の方では、当面の課題として、床上浸水した高齢者の方の支援が急務であるが、ボランティアの方の支援も未知数であるため、マンパワーの不足を懸念していると仰っていた。

尾崎白浜地区と佐須地区に向かう際、山間部で、至る所から水が噴き出ている、岩泉の被害の際と同じ状況であるという印象を持った。尾崎白浜地区については落ち着きつつあるようであるが、佐須地区については5メートルくらい道路が陥没しており、徒歩で通行できると言っているが、高齢者には厳しい状況である。

町内会長とも話をしたが、皆さん気持ちは前向きであった。いろいろ課題があると仰っていたので、出来る限りの支援は行う旨回答してきた。

#### 【達増本部長（知事）】

本日から総務省と経済産業省からもリエゾンとして参加いただいておりますが、皆さまの御協力感謝申し上げます。

昨日は、ヘリで上空から全貌を視察してきましたわけでありましてけれども、今日は車で副知事とも手分けをして主なところを見てきました。

私は雨量が一番多かった普代村に行きました。ここは市街地の中心部が被害を受け、役場前の川に並行して走る国道45号の普代村の商店街にしてメインストリートがちょうど端から端まで冠水、土砂崩れ、川の水と土砂崩れが合わさったような状況で、広く厚い泥が道路に堆積、流水もまだあって、それを取り除かないとそれぞれの家々の片付けもできないということで、大変マンパワーが必要な状況。陸上自衛隊岩手駐屯地から大勢入っていただいて、作業は進んでいますが、家屋の被害状況など今日は調査中という段階で、かなり酷い被害です。

釜石や宮古、山田町の話がありましたが、泥掻きや家の片付けに入る時に、マンパワーが必要で、様々な組織的支援が必要ですが、昨日はカナダ代表のラグビーチームがボランティアをしてくれましたが、ボランティアの参加ということも、市町村の受入れ態勢と調

整をしながら、まずは県内から呼びかけていく必要があると思います。

今日、死者2名ということで、亡くなられた方には心からお悔やみを申し上げたいと思います。

初期の約1万人から、避難者が減っていますが、避難によって難を逃れることができた方が大勢いたと思います。まずは、避難の大切さを改めて感じた今回の災害だと思います。

その避難者が次第に少なくなって、ゼロになる箇所が出てきていますが、近親者の家に自主的に避難していて、自宅が被災している方々がいます。普代村でも、避難者ゼロとカウントされていますが、実際には避難しているという方がいて、そういう方々はまだ事実上避難者のような生活をしています。また、孤立地域の方々の中でも、通常の避難者のように、避難所で水や食料の支援が得られずに、自宅で片付けなどをしながらという状況の方々もいます。釜石市では避難所はゼロになったということではありますが、孤立箇所でも半分避難生活を強いられている方々がいるということで、そこは実質的には避難者ということで要注意だと思います。いずれにせよ、人命第一。安全と健康について心許ない状態にある方で、避難者とはカウントされていない方がいるので、そこは要注意というところだと思います。

DMA Tは、日本全体の台風第19号災害の中で県外への支援という部分が出てくるところもあるかと思いますが、そこには適切に対応して参りましょう。

そして、明日から平日になり改めて学校に通うとか、通勤する、そして仕事をするといったことが普通にできない場所というのが明らかになってきますので、そこにきちんと対応しながら復旧させるべき場所というのを確認しましょう。そして、生活支援につきましては、これはもう自衛隊のマンパワーを本当に頼りにしていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

加えて、徐々にボランティアについて、市町村側の受入態勢ができたところから、県も一緒に呼びかけていくというふうにして参りましょう。

明日以降、またフェーズが変わっていきますが、通常業務と共に災害対策をそれぞれ関連付けながら進めて、ぬかりのないようにそれぞれの部局にお願いしたいと思います。

18時50分閉会

※ 第6回本部員会議は10/15（火）17：00を予定